



(一社) 原子力国民会議
TEL: 03-5809-0085
Email: nnc@kokumin.org
http://www.kokumin.org



LINE@原子力国民会議開設、友達登録受付中！LINEアプリを起動して、
[その他] タブの [友だち追加] で
QRコードをスキャンします。



原子力国民会議だより

小池劇場の実態 – マスコミ相手の「お前のお前」 – ゼロ原発は再考した方が良いのでは –

註：本稿では、「お前のお前」という人間関係が理解のカギです。初めの“お前”は相手を指し、後の“お前”は自分のことです。「お前と俺」の関係より深い絆を持った人間関係です。

1. 迎合主義の成功例 – 日本教とは

●政治的舞台をつくる“策”と“パフォーマンス”；

多数決を原則とする民主主義の下では、リーダーは多数の支持を得なければならない。そのためには大衆の理解が必要になるが、そのパターンとして「迎合と説得」の2つがある。

迎合とは言うまでもなく「大衆の気持ちにおもねる」ことで、建設的な意見は無視されがちである。説得とは「大衆を正しい方向に導く」ことで、望ましいことだが「良薬は口に苦し」で敬遠されがちである。民度が低いと前者であり単なる利益の配分に終わるが、後者は高い民度を必要とし新しい創造をもたらすものの、正論はなかなか理解されない。

今話題の小池劇場は前者であり、美辞麗句満載の内容は「巧言令色鮮し仁」を連想させる。仁はここでは政治的成果を意味する。小池氏は都知事になって1年余りなのに、実績は皆無に近い。政治は結局大衆が決めるので、短期的には実績より迎合がものをいう。悪い方向に偏った政治は衆愚政治と呼ばれ、マスコミ横暴の現在、状況はそれに近い。

総選挙で政局がにわかになんてなってきた。希望の党は小池劇場の一幕で注目の的である。これまでのところ（10月1日現在）、小池氏のシナリオは、イ）希望の党設立、ロ）民進党と合流を計り左翼議員を排除する、ハ）民進党の政党交付金を濡れ手に粟的に入手する、ニ）公約は、憲法改正、安保法案容認、30年ゼロ原発、ホ）安倍政権打倒の世論を最大限利用する、などとなっている。現政治を再編する上で“策”として良く考えられていて効果的である。

しかし、「策士策に溺れる」ことも人生の常で、棒ほど願ったが針ほどしか叶わなかった、という結果になるかもしれない。10月22日の投票日に第一次結果が判明する。そこでうまく行っても、第二幕が待っている。

ところで、この“策”がうまくいっている要素は何か、

と思ってしまうが、それは小池氏の演出力であろう。安倍総理の話は筋が通っており生真面目で説得力はあるが、大衆受けしない。小池氏の話は日教組教育で草食化した人々の心に心地よく溶け込む。歯切れも良い。この小池氏のパフォーマンスが“策”を機能させている。安倍総理の振る舞いは飽きられているが、小池氏のパフォーマンスはフレッシュである。そこでこのパフォーマンスの実態は何かを考えてみたい。

●日本独特の人間関係“お前のお前”；

人が自らの行動を決める動機と判断は、日本人の場合、「空気」に左右される場合が多い。過去の事例は山本七平の「空気の研究」に詳しい。以下に触れる“日本教”は「空気」と切っても切れない関係にあるが、ここでは触れない。それは日本人の社会的行動に関し固有のパターンとなっており、容易に変わりようがない。

一方、個人レベルの日本教に着目すると、「俺とお前」の二人称の極限状態である「お前のお前」といった人間関係が重要な要素として浮かび上がる。この見方が、今、衆議院選挙で吹き荒れている“小池旋風”を解くカギである。

●恩田木工と美濃部亮吉；

イザヤベンダサンは「日本教について」の中で、日本人の色々な行動パターンを日本教に基づいて説明している。その例として、恩田木工（木）と美濃部亮吉 元都知事を紹介している。両者ともこの「お前のお前」という人間関係を活用して、前者は松代藩の財政の立て直しに、後者は都民の人気を下に困難なごみ問題を解決することに成功している。

恩田木工は、江戸中期、松代藩の家老であった。恩田は城主に懇願されて破たんしている藩財政の立て直しを要請され、借金の相手である商人と税を納める農民との間に「お前のお前」という関係を構築して、無理難題を喜んで受け入れてもらい大成功を収めた。そのやり方

は、徹底的な自己利益の否定と“お前”との利益の共有化にあった。

一体感が生まれれば、借金の帳消しなど朝飯前。藩が借金している商人などに対し「藩のため、あるいはそちどものためこれまでの借金は棒引きとする」という“お達し”に対し、相手は涙を流してそれを受け入れたという。

美濃部亮吉は「対話の美濃部」と呼ばれ、都民を相手に「お前のお前」という関係を構築した。政治手腕は拙劣で東京都の財政を破たんさせたにも拘わらず、都民に対する人気は天皇に次いで高かったという。都民は知事との対話集会において相談された気分になり、「お前とお前」の関係を意識でき、財政問題など棚上げされても文句も言わず、ある一線を越えるまで人気は続した。

2. 小池新党の反原発のスローガン

●小池都知事とマスコミ；

翻って、小池知事と都民との関係はどうなっているか、であるが、それは美濃部氏とは異なっている。

美濃部氏は都民相手の“対話”を活用したが、小池氏は都民に代わりマスコミを通して都民との“対話”に成功している。マスコミ相手の彼女のパフォーマンスはこの上なく成功している。

しかしである。小池氏にとって大きな懸念は“政策的內容”が伴わないことであり、それが顕在化したとき小池氏の“政治的綻び”が始まる。“希望の党”の代表と知事職の二足の草鞋では、多くの人の批判にさらされるので、かじ取りを誤ると糸の切れた“凧”であろう。小池新党も従来の新党同様期待以上のことにはならないかもしれない。豊洲問題のしくじりがこの例になるかも知れない。

●小池氏と反原発；

反原発に関して、小池氏は小泉元総理と手を握った。しかし、小泉氏の反原発は技術的には事実無根そのもので、でやがて化けの皮がはがれる。それを小池氏が知らないはずはない。これまで原発容認であった小池氏は問題を抱えることになる。反原発は選挙民の賛同を得るうえで効果的であるから新潟県米山知事にあやかりたくなる。そうなると、“連合”内の原発推進勢力が問題を複雑にする。それに加えて将来のエネルギー問題を原発なくしてどうやって解決するのか、という難問が待ち受けているが、今はこの場をしのげればよいとの思いかも知れない。“連合”と「お前のお前」の関係に入り政策の違いに目をつぶることができればよいが、できない話であろう。

北朝鮮、中国の覇権主義、など国難の到来はまちかである。反日勢力に煽られ反原発に偏っている国民は、国難にあった時目が覚める。その時、小池氏は反原発の旗を降ろせるようにしておければ結構であるが、できるかどうか。マスコミとの「お前のお前」の関係が有効であれば、しのげるだろうが、世間はそう甘くはあるまい。

しかしながら、小池氏が憲法改正といったとき、安倍

氏と違い人々のアレルギーは静かである。小池氏の貢献で憲法改正ができれば、彼女は偉大な総理に値する。小泉氏の反原発など蹴飛ばす位の蛮勇があれば識者も見直すことになる。このことを頭のどこかに置いてもらうと将来「捨てる神あれば拾う神あり」となろう。

●小泉純一郎は 何故 反原発か；

小泉純一郎氏の本質を知るとわがままでヤンチャ老人と言ってもよいのかもしれない。原子力は“ずぶ”の素人なのに、あれだけ熱心に理にかなわぬ反原発を主張するには、政治的裏があると思わなければならない。日本の国益を考えた振りをしているが、実態は自己中心主義者ではないか。

彼は米国のシェールガスや石油業界の代理店の役割を果たし、彼らがエネルギーに関して日本を収奪できる手助けをしているという見方がある。米国の化石燃料業界は、日本から原発がなくなれば、油代をいくらでも吹っ掛けることができ莫大な収益を得ることができる。この事情を抜きにして彼の振る舞いは説明困難である。田母神俊雄著「なぜ朝日新聞はかくも安倍晋三を憎むのか」に詳細が語られている（p 191）。本当に米国のシェールガスとオイルメジャーの走狗だとしたら大変なことではないだろうか。

米国は日本の安全保障を守りつつ、日本から軍需面で莫大な利益を得る構造を戦後 70 年間維持している。また、小泉氏は現役の時、郵政改革と銘打って米国の国益に資した。ブッシュ大統領との友人関係を誇示しつつ、国益を米国に売り渡していた事実も確かなようだが、それが政治だといわれると納得せざるを得ないものの、原発を食べ物にするのだけはやめてもらいたいと思う。



引用元: www.nikkan-gendai.com

3. 終わりに

憲法改正、安保法案容認、原発反対は良く考えられたしかし矛盾をはらんだ公約である。これはまた、民進党リベラル派を排除する条件でもある。30年ゼロ原発は希望の党の行く末にとって「諸刃の刀」となり、政権獲得の妨げになる確率も小さくないのだから、自然エネルギーが原発代替にならないことを知っていて欲しい。そうなので、小池さん、30年ゼロ原発は問題ですよ、それでよいのでしょうか。

(K.M.記)